

一カク



アメリカ団少年会総会

去る8月19日、アメリカ団少年会総会が少年会本部から久保一元委員にお越しいただき、4年ぶりに従来の形で開催され、元気溢れる少年会のおつとめまなびの音が、伝道庁の神殿に響き渡りました。午後からは多目的ホール前に用意されたゲームブース、アイスクリーム、綿菓子などで、楽しいひと時を過ごしました。

天理教アメリカ伝道庁

No.910

SEPTEMBER

2023



tenrikyo.com



つらつらせんがく 熟々浅学



— レコードの復活 —

今月は、秋季霊祭が執り行われます（ました）。先人たちが天理教の教えを広めるために遺された御功績の上に現在の私たちが立っていることを忘れずに、日々を通りたいものです。

また今月は、「にをいがけ強調の月」です。普段よりも「にをいがけ」に焦点を当てて、陽気ぐらし世界に少しでも近づけるように「にをいがけ」に努めていただければ嬉しく存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、私が高校生として来米した 1977 年頃は、レコードやカセットテープで音楽を聴くのが主流で、私もその一人でした。

私は前年（1976 年）に購入したばかりの「ラジオカセットレコーダー（以下、ラジカセ）」を、手荷物として来米時に日本から持ってきました。

今でも覚えています。当時の日本の主流、つまり多くの日本の高校生が購入していたラジカセは「SONY1980」でした。しかし、私は少し見栄を張って、スピーカーが大きかった「SONY1990」という一つ上のランクのラジカセを購入しました。「SONY1980」も同様だったかもしれませんが、「SONY1990」にはミキサー機能が付いてあり、エレキギターを繋げれば音を出すことができました。つまり、アンプとして使うことができたのです。

また、マイクを付けて録音することが出来ました。高校時代にお世話になっていたセントラルフレズノ教会の雪本益次先生が、カリフォルニア州フレズノ市にあった日本語のラジオ放送局での「天理教の時間」を担当されておられましたが、毎週、そこで流すお話を、このラジカセを使って録音していたこともありました。

「ラジカセ」と言われていたように、1980 年

頃、Compact Disc（以下、CD）は製品化されていませんでした。カーオーディオにも CD プレイヤーは組み込まれてなく、ラジオとカセットプレイヤーが付いていたのが“最新”でした。

その後「Digital Audio Tape（以下、DAT）」も出始めたように思います。つまり、デジタルで録音するというシステムで、カセットテープのような記録媒体に音楽や音声をデジタルで録音するのです。音質は良かったようですが、その後、Mini Disc（MD）や CD が出始め、DAT の使い勝手の悪さもあって“消滅”してしまいました。

私の母校の大学には、かつて学生自治会（Student Union）が運営していたレコード店がありました。入学当初、その店でレコードを買うことがありましたが、ちょうどその頃に CD が流行り始めました。1 回生の時だったか、2 回生の時だったか定かではありませんが、その店は閉められることになり、閉店セールが始まったのです。何十枚と買ったわけではありませんが、低価格でレコードを購入することができ、今でもそのレコードたちは天理の自宅に保管されています。

大学を終えて日本に帰る時にターンテーブルも持って帰り、当時、天理の実家にあったオーディオシステムのターンテーブルと取り換えて、それでレコードを聴くことがありました。しかしその後、レコードを聴く機会が減り、代わりに CD を購入することが多くなって、それらを CD ラジカセで聴くようになったのです。そのようになった理由の一つは、CD の持ち運びや管理の便利さにありました。

しかしそれから数十年を経た今では、購入した CD の音源データをパソコンに取り込み、パソコ

ンを使って音楽を聴くようになっていきます。

私は音楽を聴かないと生きていけないという人間ではありませんが、祭文などを墨書する際には、パソコンを外部スピーカーに繋げて、イーシーリスニング・ミュージックや高校、大学時代のアメリカの歌曲、つまり、70年代後半から80年代前半の歌曲を聴きながら墨書しています。その方が集中しやすいからです。

CDで音楽を聴くとレコードを聴く時に聞こえてくる“雑音”は聴こえません。しかし同時に、深みのある音、音色も消えているように感じます。綺麗な透き通った音は聴こえてくるのですが、少し温み感が感じられないように思うのは、私だけでしょうか。

以前から、レコードから流れる音質が好きだという若者たちがいることは知っていますが、彼ら、彼女らも私と同様の感想を持っているように思います。彼らの中には、レコード針を盤面に乗せた時に流れる「ザーッ」とか「ブチブチ」と聞こえる“雑音”とでも言える音が心地よいという人もいます。また、レコードを入れている“ジャケット”が良いという若者もいます。

「何故レコードを買うのか」との問いに対して若者たちは、「音楽を物理的に所有したい」、「レコードを再生する“儀式”が好き」、「付属冊子の解説を読むのが好き」、「お気に入りのアーティストを応援したい」、「レコードを眺めたい」、「アルバムに没頭したい」（ちょっと意味不明ですが）と答えています。

このような影響もあってか、アメリカでは2021年のレコードの売上高が35年振りに年間10億ドルを超えたとのこと。アメリカの人気女性歌手のレコードが3ヵ月間で100万枚売れたそうですが、誰がレコードを購入しているかと言いますと「Z世代」と言われるスマートフォン（以下、スマホ）で音楽に親しんでいる若者たちだそうです。

「Z世代」は音楽をダウンロードしてスマホで聴くので、レコードもCDも所有していな

い人が多いようです。ですから「音楽を物理的に所有したい」とか「レコードを眺めたい」という気持ちは納得できます。「お気に入りのアーティストを応援したい」という人を含め、このような人々は、レコードを聴くことをしなくてもレコードを“所有すること”に価値を見出しているようです。事実、2022年にレコードを買った人の半数はターンテーブルを所有していないとのこと。

このような「レコードの復活」は少々驚きますが、レコードに慣れ親しんでいた私にとっては、少々嬉しい気持ちになります。「やっとレコードの良さが分かったのか」と、ちょっと上から目線の気持ちです。

このように時代を経ることによって、古い物が再評価されて新しい価値が見出されることがあります。古い物を知らなかった世代が、それを見つけて“新鮮”に感じるのが起きます。非常に面白い現象だと思います。

私たちにとって天理教の教えは“古い”ものではありません。教祖が186年前から教えてくださったので“古い”と言う人がいるかもしれませんが、教えが変わることも古くなることもありません。ただ、時代によって受け取り方、受け止め方、つまり悟り方に変化が出てくることはあるかもしれません。また、今まで気付かなかった親神様の思召の深遠さに気が付き、新しい悟りが生まれたり解釈を見つれたりすることがあるかもしれません。

ですから、教理や教祖のひながたを見つめ直すことや、先人の通った道を振り返ることは大切であると思うのです。つまり、常に神意を求める心、また、常に私たちの心を神意に合わせる努力は大切であると思うのです。そして、そのような心で、日々の道を歩むことが大切であると思っているのです。

深谷 洋

立教186年8月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、紋型ないところからこの世人間をお造りくだされ、旬刻限の到来と共に、教祖の神のやしるに表に現れて、神直々のだめの御教えをお啓きくだされ、たすけ一条の道をお付けくださいました。爾来、道は世界に伸び広がり、この地にも教祖のひながたを頼りに道を歩む者をお与えただいております御慈愛の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は御恩報じを念じて、世界たすけの御用の上に、日々勇んでつとめさせていただきますいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の八月の月次祭を執り行う芽出度い日柄に当たりますので、只今より、おばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびて参り集いましたよふぼく、信者一同と共に、本日は大勢の少年会員も参集し、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、久保一元少年会本部委員を迎えて、少年会アメリカ団おつとめまなび総会を滞りなくつとめ終えささせていただくことができ、誠に有難うございました。将来の道を担う少年会員たちが、立派なよふぼくへと成人できますよう、お育ての程をお願い申し上げます。

また本日は、従来祭典講話に代えて、久保委員より縦の伝道講習会としての講話を頂戴しますが、心新たにして、道の後継者育成への第一歩となりますようお願い申し上げます。

更にはまた、来月はにをいがけ強調の月ですので、一人でも多くのよふぼく、信者がにをいがけに励み、管内に御教えを広められますようお願い申し上げます。

私共は、当伝道庁創立九十周年記念祭に向かう時旬、管内の教友の心を一手一つに結び、心の成人に励み、陽気ぐらし世界実現の上に、日々道の御用の上に勇んで通らせていただく所存でございます。何卒、親神様には、私共のこの真実の心をお受け取りくださいます、世界の人々の心が澄み切り、たすけ合って暮らせる世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

8 月月次祭神殿講話

少年会本部委員
久保 一元

私は、2006年から2009年までニューヨークの大学で音楽の勉強をしていました。その時、住むところがすぐに見つからず、本当に偶然の出会いから、はじめ佐々木先生の布教所にお世話になることになりました。

私は昔からやっていたジャズのドラムをアメリカで本格的に学びたいと思い来たのですが、佐々木先生の布教所には地下室があって、しばらくそこで泊まらせていただくことになりました。すると、そこに息子さんのヒロのドラムが置いてあって、練習をすることができました。これは偶然でした。そして、オーディションをパスして入ることになった学校に行くと、隣のビルを見上げたときに「天理」と赤い旗に書いてあったのです。偶然、天理文化協会の隣のビルが私の学校でした。

そこで、文化協会の所長で学生の頃は天理大学のアルスでマネージャーをしていた奥井先生が私を応援してくれて、文化協会のレセプションパーティーで初めてギグの仕事をしたのでした。

それがきっかけで、滞在中は、多種多様な人種の人々とバンドを組み、ジャズ以外にもいろんな音楽をニューヨークのいろんな会場で演奏することができるようになりました。

そのように好きなことをしにアメリカに来ていた私ですが、実は、それ以上に、この国で出会った素晴らしい教友の皆さんの信仰姿勢を見て天理教の勉強ができたことが、私の人生にとって大きな宝物になりました。

佐々木先生の勧めで、柔道を毎週土曜日にやることになりました。その時に、森下所長先生が、私に「Mo 君、一緒にやろう」と言って、すごい力で寝技をかけられました。私はタップしました。先生の勢いにまず驚いたのでした。

それ以来、滞在中は欠かさず柔道に毎週来ました。そして、月次祭にも出させていた



いて、教会で少しカジッていた雅楽も出させていただきました。ドレッドヘアをしていた私の髪の毛は、かんむりからいつもはみ出していました。

当時、ニューヨークセンターに来ると、前の小さな神殿でおつとめや月次祭をしていました。そして、奥の棟を解体している時期でした。森下先生が重い機械を使って、コンクリートをガリガリと割り、私たちはその重い大きなコンクリートの塊をみんなで汗だくになりながら運び、キッチン側の駐車場をつくりました。

そんな神殿ふしんの真っ只中に、偶然滞在していたのでした。

神殿ふしんには、たくさんの方の真実が詰まっていました。ご自分の身上の手術を後回しにしてまで、神様のご守護をいただきたいとふしんに携わる人。自分の得意なことでドネーションを集める人、きっと私が見ていたのはほんの一部ですが、すべての方の真実が集結する姿を学ばせていただきました。

学生だった私にできることが少なかったのですが、夏休みの間、日参を心定めました。

炎天下の中、コンクリートを混ぜて神殿に登る外階段を作るひのきしんをしました。あ

れから何年も経ってから階段を歩いた時に、その時に出してもらった冷たくて美味しいお茶の味を思い出しました。

そして、一番の思い出は、森下二郎さんとお社にヤスリがけをした思い出です。それからみんなでお社を神殿にはめ込んだのでした。

夜はお酒を飲みながらいろんな話をしました。

それから、いまのニューヨークセンターが完成しました。しかし、完成間近に法律が変わり、ガスの工事が先延ばしになり、奉告祭の予定も伸びたのでした。

私の妻は、当時女子青年をしていたのですが、それが理由で1年延長して伏せ込みをさせていただきました。

そして、私が元々日本に帰る予定だった日は、偶然、奉告祭の次の月だったので。

結局、私の短いアメリカ滞在は、前の棟の解体から、新神殿の完成の奉告祭までの間。そしてセンターの30周年と2人の所長という最も濃い時間にいさせてもらったことになりました。

ここまで、偶然という言葉がたくさん使ってきました。

あのときは、全てを自分が決めて、自分で努力をして、自分でチケットを準備して、行動していると思っていました。その中で、偶然が重なって、いろんなことがうまくいったのだと思っていました。でも、これは本当に偶然だったのでしょうか。いいえ、それは違います。

それから14年が経ち、すべてのことは意味があり、神様がお導きくださることだったのだと感じます。そして、すべてのことは神様のご守護と、親々の徳がなければ、物事はうまく進んでいかなかったはずだと、帰ってから気づきました。

ここに、62年前の私の祖父の風呂敷があります。これは、1961年に、私の祖父が、世界布教を志した当時の二代真柱様に言われて、世界を回ったときに立ち寄った場所がデザインに描かれた風呂敷です。私の教会は、海外に教会はなく、私は18歳になるまで飛行機も乗ったことがありませんでした。しかし、今、振り返ってみると、この描かれている国に、

青年会本部の御用や、少年会本部の御用で、順番に行かせてもらっています。なんでそういう縁が繋がるのか、自分でも不思議です。

これを見ると、私はこの場所に自分で来ているんじゃない、神様がこさせてくださっているのだと感じます。

実は、先程の祖父は、教典の編纂に携わったり、ご本部の御用を勤めていましたが、それからすぐに、若くして出直しました。52歳でした。私の父が16歳の時に祖父は出直して、父が8歳の時に祖母も出直していました。父や兄弟はとても大変だったと思います。

そして、今度は私が16歳のとき、父が父を亡くしたのと同じ歳に、私の父は身上になりました。私は学生ながら辛い状況に悩み、母に電話をしたのを覚えているのです。その時に、改めて忘れてしまいがちな、自分がなぜお道の家で育ったのか、神様はどんなメッセージをくださったのかを伝えてもらい、そして、「ありがたいね」という言葉をくれました。

私がここでお伝えしたいのは、「いんねん」の自覚です。今お話したように、人生の中で当時は辛くて大変としか思えないできごとにも、必ず意味があります。また、今の私に昔の方々が残してくださったありがたい姿にも意味があります。そして、結果として私が天理教の信仰をして、今ここに立っているということにも全て意味があります。すべては親神様が私たちを陽気ぐらしに導こうとしてくださっているということです。自分でお道をしてるんじゃない。神様がお道を通らせてくださっているんだということを、今、この道を通る中で、実感します。

皆様方はどうでしょうか？先人がこの地に渡ってきたという方もあれば、自身でここに参拝に来られるようになった初代の方もいると思いますが。皆様方がここにいるのも偶然ではなく、お道に繋がるいんねんがあったということをもまず自覚し、お子さんやお孫さんや、先のこども達にも伝え、忘れないようにすることで、それはいつか3年、5年、何十年と経ってから、もしくは、二代、三代と経ってから「なるほど」と思う時が必ずあるはずです。つまり、縦の伝道というのは、まず自分のいんねんの自覚と、それをいざという

きに、こどもやお孫さん、後世に伝えていくことが大切だと思います。

このように、私たちが縦の伝道を通して信仰の代を重ねながら、親神様は何を私たちに伝道して欲しいと思っておられるのでしょうか？それは紛れもなく、「陽気ぐらし」です。この道を通れば間違いなく陽気ぐらしになれるという「その生き方」「信仰」です。

では、ここから「陽気ぐらし」の3つの大事なポイントについてお話します。

その前に、さっそく、みなさま方、ようばく家庭や、パートナーが、陽気ぐらしになる具体的な方法をお伝えします。ぜひ、周りの方にも伝授していただけたらと思います。それは・・・天理教の教会に家族揃って参拝に行くことです。

え？それだけ？と思われたでしょうが、実は、ちょっとしたコツがありますので、よく聞いてください。

私が妻と子供と神殿につきました。パンパンパン！！！！ 柏手を打って、頭を深々と下げて。すーっと息を吸って、親神様に感謝を申し上げます。

「日々は何不自由なく結構にお連れ通りいただきまして誠にありがとうございます。この様に家族が幸せでいられるのは、親神様・教祖の御守護はもちろんのこと・・・いつも優しくて美しい妻が家でお迎えしてくれるからでございます。教会にも、家族にも、こんなに素晴らしい奥さんをお与えいただき、ま・こ・と・に！！！！ありがとうございます。」と、微妙に聞こえる音量でお礼を申し上げますのです（笑）。

すると、不思議なことに！！！！

その後、回廊を歩いていると、妻がニコニコしているのです。家族は、奥さんがニコニコしていると、こどもの機嫌もニコニコとよくなります。

ぜひ、一度、試してみてください！

ここで大切なのは、「言葉」です。おやさまは、榊井伊三郎さんに夫婦関係についてこうおっしゃいました。

「言葉一つが肝心。吐く息・引く息、一つの加減で内々治まる。」

みなさんをご家庭の中で、日々どんな言葉



を使ってますでしょうか？また、パートナーや身近な人の中で、どんな言葉が溢れているのでしょうか？いつもありがとう！！どうもありがとう！！ありがとう！！ありがとう！！と、夫婦は1日最低50回以上はありがとうを言っていないとダメだよと、ある先人の先生が教えられていて、そうなのか！と驚いたことがあります。

身近な家族や、パートナーがしてくれることを、いつまでも有難いと思える家庭は感謝で溢れます。ところが、当たり前と思っていると感謝が消えてしまいます。

陽気ぐらしというのは、身近な言葉の中にあり、そして、それが知らず知らずに伝道しているのではないのでしょうか？

少年会長様は、今年の少年会の年頭幹部会において、

「ありがとう、ありがたいなどの感謝の言葉から、わずかな不足話まで、大人の何気ない一言でも、子供の心には、大なり小なり影響を与えます。大人が教えたことと、大人の行いが合わなければ、こどもは疑問を感じます。」と、育成会員自らの成人の大切さについてお話しくださいました。

そして、さらに、陽気ぐらしに欠かせないこととして、私は、「行い」があると思っています。

「行い」というのは、言葉だけでなく、目、耳、鼻、口、両手、両足、男一（女一）の道具、すべてを使って、私たちが現す態度のこ

とです。
この道具は、私たちが本来、相手の良いところを見て聞いて、相手が喜ぶよう、助かるように使わせて頂くためにあるものです。

それには、相手のことを思って、寄り添って、低い心で合わせる事が大切です。

合わせる心。手を合わせる。(合掌の手)

漢字では「仕合わせる」と表記されます。

本来、夫婦やパートナー、親子兄弟も、みんな心違おうと親神様はおっしゃる。でも、その中で、日頃から、相手に合わせる。相手の心になって、同じ目線で心を合わせる。コミュニケーションを取ることが大切です。

ところが、自分勝手に自分だけのことを考えて、相手に合わさない、合わないのは心得違いと言います。(「心得違いはでなおしや」の手振り)

しやハセをよきよふにとてじうぶんに

みについてくるこれをたのしめ

(おふでさき第二号 42)

と、神様はおっしゃる。

幸せは、互いに立て合い助け合い、合わせる心を身に着けることです。その先に人間の陽気ぐらしがあるのです。

陽気ぐらしの天理教が、家の中ではすれ違いの雰囲気では良い伝道は起こりません。教会の中で、家の中で、パートナーや身近な人が、楽しそうに合わせあって、音が鳴る、そんな明るい雰囲気が、伝わっていくのです。

縦の伝道も、神様を中心として、日頃から親子の心を合わせるように、信頼と安心の中で、信仰を伝えるから伝わっていくのだと思います。

そして、何より、縦の伝道の一番大切なことは、「心」です。

もっと言うと表面上の言葉や態度ではなく、心の底、本音のことです。

私は、ニューヨークから日本に戻り、すぐに修養科、そして、本部青年、真柱様の御宅の青年にお仕込み願いをさせて頂きました。帰った時に、たくさんの素晴らしいミュージシャンやエンターテイメントの仲間から、日本での仕事、特に学生時代に憧れていたステージへの出演の依頼が来ていました。それらはすべて天理教の説明をして断ったのです。

今では、その仲間たちは、先日のオリンピックの開会式に出演したり、その他、音楽業界でも大変活躍しています。

私が会長になってから、ある方が、私の両親にこんな言葉を言いました。

「よくお子さんが海外でやりたいことをやることを許可出しましたね。そのまま帰って来なくて信仰もしなくなるのではと思わなかったのですか？」

と、私自身もこの質問に対する答えを両親から聞いたことがなかったので、なんて答えるのかな?と思いましたら、

「戻ってこないと一度も考えたことがなかった。信じていた」

と、答えていました。

きっと両親の心の中には、

「この信仰は素晴らしい」「こどもには必ず通って欲しい」「きっと通ってくれるに違いない。それで間違いない」

という本心があったのだと思います。

これについて私自身は、4人の子供を育てていて、感じることもあるのです。

こども達には、おつとめが大事だよ、こうやって悟るんだよ、と、場面場面で信仰の話を伝えるのですが、私自身の心の奥底はどうだろうか?と振り返ってみますと、私自身が心の伴ってない言葉を伝えていると、こどもはイヤイヤと聞いていて、こどもも仕方なしにやっていることがあるのです。

ところが、私自身が勇んでいて、心の底から喜んでやっているという心だと、こどもたちは素直に話を聞いてくれて、一緒になってやってくれるのです。とても不思議です。

年頭幹部会で真柱様は、12～13歳頃の中山たまへ様にいただかれたおさじづを引用し、「子供たちは、子供であっても、それぞれ心を持って生まれてきて、子供なりにも人格ある一人の人間です。(中略)心をかけて長い目で見守りながら、真実込めて育てていくことは、私たち大人の責任であります。」と、お話くださいました。

まさに、こどもは親の物ではありません。ですから、親が願った通り、思った通りに育つわけでもありませんし、信仰もその通りにしてくれるものでもありません。

親の心通りになってきます。

親自身が本心から良いと思い、本心から好きだと思い、真実の心でいつもいたならば、こどもはたとえ止めたとしても、親の真似をしたいと思うのだと思います。

以上が、縦の伝道にとって大切な陽気ぐらしの3つのポイントでした。

最後に、年頭幹部会で真柱様は、

「ひながたはいつの時代のどんな立場の人でも、陽気ぐらしを目指す者全てが通る道であります。(中略)今の自分にとって、どうしたらひながたの道を通ることができるかと、常に我が胸に問いかけ、思案を巡らすことが肝心であります。」

と、お聞かせてくださいました。

このお言葉を思いますと、

「人助けたら我が身助かる」

という言葉思い出します。なぜなら、良い言葉、良い行い、良い心を意識していても、自分のことばかりを考えているときは、どうしても心が晴れません。しかし、何かちょっとでも人の助かることや喜ぶことを意識していたら、不思議と陽気ぐらしになれるのです。ですから、私は、外に開放する大教会を目指し、気づいたら、こども食堂、フードパントリー、DV被害者や、居場所のない若者のシェルターをやっている、今は、頼まれてウクライナ避難民を教会で預かり一緒に生活しています。

人助けと言っても、時代や環境が変わるので、おたすけの内容は自然と変わっていくと思います。例えば、ここアメリカで、その中で、私の4人のこども達は、その姿を見ているようです。

自分が育ててもら側ではなく、助ける側に回り、言葉の通じないウクライナのこどもと遊んでくれたり、おたすけメンバーの一員になってくれます。

また、自然と戦争やこどもの貧困やDVなどの社会の問題も、私から全部説明するので、自分たちでもニュースなどに興味を持ちます。すると、「なんで人間は仲良くできなんだろう?」「どうしてこんな問題が起こるのだろう?」という、こどもなりに疑問を感じながら自分で考えます。そうすれば、きっと、やっぱりこのお道が「この世おさめる真実の道」で、



如何に素晴らしいかと自分で悟ってくると私は信じています。

ですから、まずは、自らがこの道に引き寄せられたいんねんを自覚し、信仰の喜びを持って、日々の中に教祖のひながたを辿ろうと努めさせていただきましょう。そして、今の社会、地域で、今の教会でできる人助けを実践しながら、まだ道知らない人も導いていけるように動きましょう。その姿は、きっと将来の少年会員たちに大きな影響を与えたいと思います。共に勇んでさせていただきます。

以上、縦の伝道について、私のお話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

※以下のリンク /QR コードから Youtube にてご覧いただけます。

<https://youtu.be/wO2SNssmi4o>





伝道庁連絡



8 月 月次祭

祭主 庁長
 扈者 田中知義 中富淳次郎
 賛者 伊藤伊智郎 丹羽ハミルトン
 指図方 伊藤國繁
 神殿講話 久保一元 (英)

教会事情

ノウスアメリカ教会：任命願、臨時祭典願、
 恒例祭日臨時変更願、教会所属変更願
 おはこび：2023 年 7 月 26 日
 教会長：北井則子
 奉告祭：2023 年 10 月 1 日
 アメリカ伝道庁：臨時祭典願
 おはこび予定：2023 年 10 月 26 日
 サンフランシスコ教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび予定：2023 年 10 月 26 日
 教会長：田中知義
 奉告祭：2023 年 12 月 2 日

天理教語学院 (TLI) 日本語科入学願書 及び志願者のための一れつ会扶育願書

2024 ~ 2025 年の「天理教語学院日本語科入学願書」と「日本語科志願者のための一れつ会扶育願書」が伝道庁に届いています。出願期間が下記のようになっていますので、入学を希望される方は 8 月末までに伝道庁までご連絡下さい。

日本語科入学願書
 出願期間：2023 年 8 月 15 日 ~ 9 月 20 日
 (日曜、祝祭日除く)

願書費用：一部 5 ドル
 一れつ会扶育願書
 出願期間：2023 年 8 月 15 日 ~ 9 月 20 日
 願書費用：無料 (日本語科志願者のみ)

また同校のおやさとふせこみ科の出願要項は以下のようになっております。願書を取り寄せる必要がありますので、入学を希望される方がいる場合はお早めに伝道庁までご連絡ください。

出願期間：2023 年 10 月 1 日 ~ 10 月 31 日
 (日曜日、祝祭日、10 月 26 日午前は除く)
 出願資格：以下の条件を全て満たす者

- 1) 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者。
- 2) 海外の教会長、布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時にようぼくの者。
- 3) 本校日本語科卒業 (見込み) の者、または「日

本語能力検定」N2 (または 2 級) 以上に合格した者、卒業後、将来本国においてお道の業務に従事する予定の者。

ようぼく一斉活動日

教祖 140 年祭に向かう三年千日、同じ地域に住むようぼくがお互いに励まし合い勇ませ合って、それぞれの教会や個人の年祭活動の更なる実践につなげる」ために、各地区に於いて「ようぼく一斉活動日」が実施されます。所属する各地区責任者に開催日時・場所について確認して、参加して下さるようご案内します。

秋季霊祭

9 月 16 日 (土) 午後 7 時より秋季霊祭を執り行いました。

マウイ島山火事募金

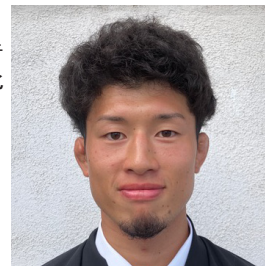
ハワイ州マウイ島での山火事災害に対して、10 月 15 日 (日) まで、伝道庁事務所募金箱を設けて募金を集めます。集まった募金は、ハワイ伝道庁に送り、マウイ島山火事災害のために使用します。小切手の場合は宛名に「Tenrikyo Mission Headquarters in America」と記入し、メモ欄に「マウイ島募金」と書いてください。また、Tax 控除を希望される場合は、封筒に現金又はチェックを入れて封をし、寄付者の氏名、住所、金額と「マウイ島募金」と封筒に書き、募金箱に入れてください。後日、アメリカ伝道庁より感謝状をお送りさせていただきます。

尚、現金の郵送はご遠慮ください。また、以下の QR コードよりマウイ島に直接募金も可能ですので、ご利用ください。



伝道庁人事

8 月 17 日に、伝道庁青年として田中真男氏 (此花・湯浅) が 8 月 17 日に着任しました。



各 会 連 絡

布教委員会

- ・11月に「よふぼくの集い」の開催を予定しております。詳細は検討中。

教化育成委員会

- ・おやさと練成会事前研修は、12月28日（木）～30日（土）の日程で、対面式で開催します。小委員会では、対象者に連絡をとっており、参加希望者に申込みのリンクを送っています。
- ・TSA 冬季練成会を、12月26日（火）～29日（金）に伝道庁にて開催予定。内容：講義、HARP 行事、餅つき、スキー/スノーボード。申込書は今月配布します。

広報委員会

- ・90周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「れつ・ニュースレター」に掲載しております。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先：

川上 (kamishuyo@hotmail.com)

林 (takhayashi@gmail.com)

婦人会

アメリカ婦人は、2024年に創立70周年を迎えます。諸先輩方がお通り下さった尊い歩みに感謝し、更なる歩みを親神様、教祖にお誓い申し上げるべく2023年、1年をかけて「アメリカ婦人会創立70周年記念おちばがえり」を実施致します。

おちばへお帰りになられた婦人会員は、是非お名前をお知らせください。

・地区総会

シカゴ地区総会 於：ミッドウエスト教会

9月24日（日）午前10時30分～

ニューヨーク地区総会 於：ニューヨークセンター

9月24日（日）午後1時～

ロスアンゼルス地区 於：アメリカ伝道庁

10月22日（日）午前10時～

サンフランシスコ地区 於：Zoom

10月28日（土）午前10時～

- ・主任と委員部長との懇談会を開始

青年会

- ・第97回天理教青年会総会は11月25日（土）午前11時より教会本部で開催されます。総会後に、ステージや屋台などがある催し物が開催されます。
- ・インターナショナルひのきしん隊は、2024年7月18日～24日に開催予定。
- ・教祖140年祭の年の2026年7月18日～24日にもインターナショナルひのきしん隊の開催予定。

少年会

- ・縦の伝道講習会が8月に開催されました。講話のビデオが伝道庁ホームページにアップロードされました。どうぞご視聴ください。
- ・教会こども会等で教祖のお話し、地域での少年会ひのきしんを実施してください。
- ・おつとめ着や子供おちばがえりのTシャツ等、寄付していただける物があればお知らせください。(moto1884@icloud.com)
- ・少年会員の名簿のアップデートにご協力ください。新生児等、教会に新しく加わった少年会員がおられましたら、少年会までお知らせください。
- ・少年会ビデオライブラリ
教えを学べるビデオや、活動のビデオ等をアップしていますのでご視聴ください！詳しくは少年会までお問い合わせください。
- ・日々に教えの読み聞かせを
「Let's Learn the Teachings!」(\$3.50)
「Let's take a moment」(\$4.00)
- ・少年会ハッピーの購入をご希望の方はご連絡ください。サイズによって\$20- \$30でお分けしています。郵送可。
- ・サンデースクールを再開しました！スタッフとしてお手伝いいただける方がおられましたらご連絡ください。(moto1884@gmail.com)

NYセンター

- ・8月22日 石兼公博 国連特命全権大使来訪
(文化協会)
- ・8月31日 Bryton Wong氏（本島・N.C.）着任
半年の予定でセンターで青年づとめ
- ・9月3日 にをいがケデー NY地区活動
約40名参加
- ・10月14日 青年会・女子青年合同交流会

アメリカ団少年会総会









アメリカ伝道庁 管内教会史 1985～2015

第44回 サクラメント教会

土井庄之助とその妻は、渡米前は愛知支教会の熱心な信者であり、サクラメントのサードストリートでホテルを経営していた。

1928年1月、サンフランシスコ教会長神沢常太郎は日本からの紹介状を持って土井たちを訪問し、道の現状を伝えた。神沢は土井の家にお社を祭り、布教活動に支援してもらうことの同意を得た。

土井は、サンフランシスコ教会の奉告祭のために訪れていた名京大教会長諸井忠彦に感激し、天理教の教えを熱心に広め始めたのは同年4月のことだった。すぐに7人、8人の信者のご守護をいただいた。その後すぐに、

宮野義一会長が10日間の布教活動のためにサクラメントに派遣された。これがサクラメントにおける布教活動の始まりである。

5月2日、土井が経営するホテルにサクラメント・フォロワーズ・センターが設立された。そして、布教活動の責任者に任命されたのは、伊藤久仁麿である。

布教師達の努力は報われ、12月6日、第二次名京布教師派遣団の一行として渡米した布野光蔵を会長に任命し、サクラメント教会設立の認可が下りた。その後、岩間瑛がサクラメント周辺の布教責任者に任命された。岩間は近くの町ウォル ナットグローブとニューカッスルで布教を挙げ、その結果、ミッションセンターがニューカッスルに設立された。

1931年、吉沢実が岩間の後継者として大教会から任命された。彼は、ストックトン、メリスビル、ニューカッスルに布教に訪れた。

1932年4月、吉沢の後任としてオレゴン州



ポートランドのオレゴン教会で布教師として努めていた小島久満吉に引き継がれた。小島は布教を引き継ぎ、5月29日、土井庄之助を所長とするミッションセンターをメリスビルに設立した。

1933年10月、小島はおぢばに帰り、サクラメント教会の教会長としてのお許し、教会の移転、およびお目標様下付のお許しのお運びをし、これらの願書は、12月16日、18日と21日に承認された。

1938年7月、信者が増加したため、教会はサクラメントのセカンドストリートにある建物を購入して移転した。

第二次世界大戦が勃発し、小島は1942年3月28日に、二人のFBI局員によって逮捕された。最終的に彼はニューメキシコ州ローズバークの強制収容所に送られた。そこではアメリカ伝道庁長であった橋本庁長と20人以上の天理教の教会長がすでに収容されていた。

終戦後、戦前に購入していた教会は返却された。住宅不足のため、教会には信者らを含め20人以上が住んだ。

1947年2月、小島は初めて東海岸を訪れた。彼はニュージャージー州シーブルックのワークキャンプにいた橋本伝道庁長とワシントン教会の会長布野光蔵を訪ねた。シカゴでは小畑若松を会長としてシカゴ布教所設立の準備が進められた。

1966年、都市再開発のため、教会はその場所から移転を余儀なくされた。教会は、役員であった麻生文蔵が所有していた土地を購入した。3月26日、教会建物の移転および建築の許可が下りた。1966年12月4日、名京大教会長諸井孝子出席のもと、新教会の落成奉告祭がつとめられた。

1969年4月26日、アメリカ伝道庁長植田英次身上のため、小島久満吉が伝道庁長代務者に任命された。小島はその任を務め、アメリカ布教の拡大に貢献した。

1970年11月3日、小島久満吉の身上のため、長男の安信が後継者としてのお許しを得ることを決意した。安信は急遽おぢばに帰り、1970年10月27日に3代会長のお許しを戴いた。同年11月3日、小島久満吉は出直した。

1983年4月4日、教会拡張の普請が始まった。1983年10月3日、伝道庁長篠森夫妻を迎え、現教会の増築奉告祭が執り行われた。

2004年1月、小島安信は、長男であり唯一の息子であるブライアンに教会の後継者になることを依頼した。

ブライアンはおぢばに帰り、2004年7月26日に4代会長のお許しを戴いた。2004年10月30日、名京大教会長諸井清忠夫妻、アメリカ伝道庁長辻豊雄夫妻を迎え、会長就任奉告祭が執り行われた。



アメリカ伝道庁 創立 90 周年記念祭



家族、友人、コミュニティの人たちと
信仰の喜びを分かち合おう！

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

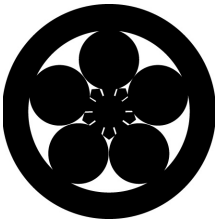
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.